

2023年2月1日

一般財団法人
熊本放送文化振興財団
事務局御中

昨年12月9日に行いました熊本県ユニセフ協会設立30周年記念行事の高須幸雄氏の講演・シンポジウムに際しまして、助成金をいただきまして、大変ありがとうございました。

報告書が出来ましたのでお送りいたします。

今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

熊本県ユニセフ協会

862-0949 熊本市中央区国府1丁目11-2

サンアイ水前寺ビル3F

TEL:096-362-5757

FAX:096-362-5758



報告書

熊本県ユニセフ協会設立 30 周年記念

講演会・シンポジウム

～SDG s の視点から世界の中の日本・そして熊本を考える～

12月9日（金）熊本県ユニセフ協会は設立30周年記念として講演会・シンポジウムを開催しました。2015年国連サミットでSDG s（持続可能な開発目標）を採択し、{誰一人取り残されない}世界を目指し、動き始めましたが、世界では戦争、温暖化による気候変動、自然災害、保健、経済、社会など世界を取り巻く様々な状況にそこに暮らす人々は人としての尊厳を奪われ、生きる希望をも奪われつつあります。

今回の講演会・シンポジウムは、国連の場で世界的視野から活躍され、現在国連事務総長特別顧問（人間の安全保障担当）の高須幸雄氏を迎えSDG sの様々な課題を自分たちの問題として認識し、取り組む機会にするために開催しました。

【日時】 2022年12月9日（金）13：30～16：15

【会場】 熊本県立劇場コンサートホール

講演会ではSDG sへの道のりとして人間の安全保障という考え方があり、これは人のレベルでの尊厳、平和を確保すること、これが住みやすい熊本を作る土台になる。「子どもの権利条約」はその軸になる考え方なのでこれを勉強することが大切になると話されました。

シンポジウムではユニセフ熊本SDG s実行委員会（県下の高校生）が1) 温暖化、リサイクル 2) 住みやすいまちづくり 3) ジェンダー 4) わたしたちの考える幸福度の4班に分かれて登壇し、それぞれに課題を見つけ、問題点を探りながら発表しました。行政、企業からも登壇していただき、それぞれの立場からも話を伺うことができました。

このシンポジウムにおいては実行委員長はじめ高校生が主体的に実行委員会を6回行い当日に臨みました。

締めくくりの質疑応答では会場参加の高校生から質問、意見が飛び交い、参加者全体が世界の中の熊本、住みやすい街とはなにかについて考える機会になりました。

{参加者} 高校生 1600名

来賓・一般 60名 オンライン参加 46名

当日配布のプログラムを同封しました。

熊本県ユニセフ協会設立30周年記念講演会・シンポジウム 決算

2022年12月9日(金)実施

収入の部

項 目	予算額	決算額	摘 要
日本ユニセフ協会	250,000	250,000	特別事業費仮受金
日本ユニセフ協会	300,000	300,000	地域普及費仮受金
助成金	200,000	100,000	熊本放送文化振興財団
寄付金	100,000	200,000	家城氏コンサートチケット益金(3/21分)(12/23分)
熊本県ユニセフ協会	0	196,348	運営費仮受金
収入合計	850,000	1,046,348	

支出の部

会場費	140,000	204,930	熊本県立劇場コンサートホール(184,930) 実行委員会会議室代(2,500×8回=20,000)
委託料	350,000	294,900	ネット配信システム・ビデオ撮影等(ピクチャーズカンパニー)
看板代	70,000	79,750	看板等製作・配置(ツカサ創研)
講師交通宿泊費	100,000	0	
会議費	10,000	55,668	講師とシンポジストの直前打ち合わせ会と直後反省会(講師・高校生実行委員40名を含む)22,292 夕食会補助33,376
通信費	35,000	44,392	高校・大学・会員・一般案内送料25,892 レターパック18,500
印刷費	70,000	60,130	チラシ14,470(5,000部) プログラム45,660(1,800部)
保険料	5,000	0	
企画費	30,000	0	
ビデオ製作費	30,000	0	
謝礼	0	15,000	星子氏10,000 前田氏5,000
図書購入費	0	281,600	高須幸雄氏著「SDGsと地域社会」熊本県ユニセフ協会設立30周年記念として100冊県下高校へ配布
予備費(雑費)	10,000	9,978	カラーコピー代1,848 弁当代5,600 振込手数料2,530
支出合計	850,000	1,046,348	

熊本県ユニセフ協会

国連事務総長特別顧問で日本ユニセフ協会副会長の高須幸雄氏が9日、熊本市中央区の県立劇場で講演し、国連が2015年に採択した持続可能な開発目標（SDGs）について「誰も取り残されない社会をつくるのが最終目標だ」と強調した。

県ユニセフ協会の設立30周年記念シンポジウムで講演した。日本の子どもが競争原理やいじめにより精神的幸福度が低いことや、熊本では男性の家事・育児時間が全国で最

22.12.10

SDGs「地域で変えられる」

熊本市 ユニセフ協会高須氏 講演



SDGsについて講演する高須幸雄氏
= 9日、熊本市中央区

も短いことを課題として指摘し、「一人一人が変われば周りも変わる。世界を一挙に変えることはできないが、地域ではできる」と話した。

シンポは、SDGsを自らの課題として認識し、取り組む機会にしておおつと、県

内の高校生向けに企画した。高校生たちも登壇し、地球温暖化の防止策に取り組む県内企業の事例や身近にできる行動、ジェンダー問題など学んだ成果を発表した。約1500人が参加した。

(東菅晃)



蒲島県知事挨拶



高須氏挨拶



高須氏の講演



シンポジウム



シンポジウム



会場内

講演会・シンポジウム

～SDGsの視点から世界の中の日本・そして熊本を考える～

講師

国連事務総長特別顧問
(公財) 日本ユニセフ協会副会長

高須 幸雄 氏



■日時 2022年 **12月9日** (金) **13:30～16:15**
(開場 12:45)

■会場 熊本県立劇場コンサートホール

13:30 **開会**
基調講演 高須 幸雄 氏

14:30 **シンポジウム**
◇**シンポジスト**

- ★高須 幸雄氏 国連事務総長特別顧問
- ★杉本 健吾氏 熊本市 総合政策部政策企画課
- ★星子 桜文氏 スター・フローレス 代表取締役
- ★ユニセフ熊本SDGs実行委員会(県下の高校生)
 - ・温暖化、リサイクル ・住みやすいまちづくり
 - ・ジェンダー ・わたしたちの考える幸福度

◇**コーディネーター**

- ★谷口 功 熊本県ユニセフ協会会長
(独) 国立高等専門学校機構 理事長
元熊本大学長

意見交換
16:15 **終了予定**

主催/熊本県ユニセフ協会 熊本市中央区国府1-11-2サンアイ水前寺ビル3F
TEL:096-362-5757 FAX:096-362-5758

【後援】熊本県、熊本市、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県私立中学高等学校協会、熊本経済同友会
熊日、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791

熊本県ユニセフ協会設立30周年記念講演会・シンポジウムにあたって

熊本県ユニセフ協会 会長 谷口 功



熊本県ユニセフ協会は、皆様方のご支援のおかげで、今年、設立30周年を迎えることができました。

この30周年を記念して、記念講演会・シンポジウムを開催させていただきます。

講演会においては、国連事務総長特別顧問で（公財）日本ユニセフ協会副会長の高須幸雄様に「SDGsの視点から世界の中の日本・そして熊本を考える」と題したご講演をいただきます。また、その後のシンポジウムでは、ユニセフ熊本SDGs実行委員会の高校生の皆さんを中心に、今回のご講演の講師である高須様はじめ、熊本の行政や企業の方々にも加わっていただき、SDGsの基本的な考えについて、また、私たちの日頃の活動の様子などについて紹介させていただき、その課題やこれからの活動について認識を共有させていただきたいと思っております。

ご承知の通り、SDGs(Sustainable Development Goals)は2015年9月に国連で「持続可能な開発目標」として採択され、2016年から2030年までの15年間に達成されるべき17の目標が掲げられました。それ以前のミレニアム開発目標の達成状況に関する課題を踏まえて、さらに一歩進んだ形としての目標として設定されています。今日の地球上の紛争や気候変動、自然災害、国際的な様々な環境の変化の中で、SDGsの基本的な考えとして、全ての人について、一人ひとりの命が大切にされ、その尊厳が守られるNo one left behind（誰一人取り残さない）を合言葉に進められています。この言葉の背景には、全ての人を受け身ではなく、一人ひとりが自ら主体的にその役割を果たすこと、すなわち、普遍性（全ての国や組織が行動する）、包摂性（誰一人取り残さない）、参画型（全員参加）、統合性（社会、経済、環境などに統合的に取り組む）、透明性（フォローアップ）などの特徴が示されています。特に、参画型と言われるように、全員参加の概念が含まれていることを見ておくことが必要です。ご講演やシンポジウムを通して、SDGsや人としてのあるべき幸せな姿とは何かについて様々な角度からしっかりと考えていきたいと思っております。

今年、30周年を迎えた熊本県ユニセフ協会の活動は、市民の皆様はもとより、世界の未来を担っていく熊本の生徒さん・学生さんと共に進められています。このことを心から誇りに思っています。今回の講演会・シンポジウムが、今日の激動する国際社会の中で、熊本の皆様と共に、人の命や権利・尊厳が大切にされることを基本とした希望に満ちた未来について思いを馳せる大切な機会になることを確信しています。結びに、ご参加いただいた全ての皆様、さらに熊本県ユニセフ協会を支えていただいている多くの支援者の皆様に心から感謝申し上げて、記念講演会・シンポジウムに向けた会長としてのご挨拶とさせていただきます。

【シンポジスト】

< 高須 幸雄 氏 プロフィール >



外務省で、国連政策課長、在インドネシア日本国大使館公使 国際社会協力部長、在ウィーン国際機関日本代表部特命全権大使、在アメリカ合衆国日本国大使館公使、国連日本政府代表部特命全権大使など歴任。国連事務局では、事務次長補（財務官）、事務次長（管理局長）、事務総長特別顧問などを歴任。現在は、国際連合事務総長特別顧問（人間の安全保障担当）、NPO法人「人間の安全保障」フォーラム理事長、日本ユニセフ協会副会長、中部大学客員教授。共編著に『日本と国連の50年』、編著に『全国データ SDGsと日本』、『SDGsと地域社会』（予定）がある。

< 星子 桜文 氏 プロフィール > 株式会社 スター・フローレス 代表取締役



2010年に、廃食油をバイオディーゼル燃料として生成販売する『自然と未来（株）』を設立。地球温暖化防止のためCO削減を提唱し低炭素社会の実現を目指し、環境問題に取り組んでいる。2013年地球温暖化防止活動環境大臣賞受賞。

【コーディネーター】< 谷口 功 氏 プロフィール >

1970年東京工業大学工学部卒業。1975年同理工学研究科化学工学専攻博士課程修了。1977年熊本大学工学部赴任。2009年4月から2015年3月まで熊本大学長。この間、テキサスA&M大学博士研究員、大阪大学タンパク研教授（併任）、分子科学研究所教授（併任）等を歴任。2016年4月より（独）国立高等専門学校機構理事長。現在に至る。

ユニセフとは？

UNICEF（国際連合児童基金）は、全ての子どもの命と権利を守るため、もっとも届きにくい子どもたちを最優先に約190の地域と国で活動しています。第二次世界大戦によって厳しい生活を強いられた子どもたちに緊急支援を行うために、1946年に創設されました。

子どもの権利を擁護する主要な機関として、戦争で被災した子どもに限らず子どもたちの健やかな健康のため、教育、保健、水と衛生、栄養、保護等の支援活動をおこなっています。ユニセフは世界中の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。世界のどこに生まれても、持って生まれた可能性を十分に伸ばして成長できるように… ユニセフは「子ども最優先」を掲げて、支援活動を続けています。

No one will be left behind ~誰一人取り残さない~

私たちはみんな地球に住んでいる 地球にはたくさんの課題がある
2030年 地球を支えているのは今の子どもたち

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」には、2016年から2030年の15年間に、国際社会が取り組むべき17の目標が掲げられています。「先進国も達成に努めるべき世界共通の目標」、「私たちの世界をよりよくするためのみんなの目標」です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国だけではなく、先進国自身が取り組むユニバーサルなものでありユニセフも積極的に取り組んでいます。

子どもの権利

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、すべての子どもが等しく持っている権利とそれを実現するためにすべきことを定めた54条からなる国際条約です。1989年の国連総会において採択され、1990年9月に発効しました。2019年9月現在、総約国・地域は196。世界で最も多くの国

が賛同し、守ることを約束している条約です。日本は、1994年4月に157番目の国としてこの条約を批准しました。

* 条約とは、批准(守る)することを決めた国の数などが一定の基準に達し、取り決めの国際法として力を持つようになることです。
* 批准とは、国が条約を守り従うための必要となる法的改正なども準備しなくては行かず、条約に批准されるという正式な意思表明を行います。

「子どもの権利条約」子どもの権利は大きく分けて4つ



子どもたちは健康に生まれ、安全な水や十分な栄養を得て、すこやかに成長する権利を持っています。病気やけがをしたら、適切な治療を受けられなければならない。

生きる権利

生存

子どもたちは、あらゆる種類の差別や虐待、搾取から守られなければならない。紛争下の子ども、障がいのある子ども、少数民族の子どもなどは特別に守られる権利を持っています。

保護

守られる権利



子どもたちには教育を受ける権利があります。また、休んだり遊んだりすること、様々な情報を得て、自分の考えや信じる事が守られることも、自分らしく成長するためにとても重要です。

育つ権利

発達

子どもたちは、自分に関係のある事柄について自由に意見を表したり、集まってグループを作ったり、活動することができます。そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務があります。

参加

参加する権利



ユニセフ国内委員会 (33の国と地域)

日本ユニセフ協会は日本のユニセフ国内委員会です。広報活動や募金活動を行っています。

各国政府

ユニセフ物資センター (コペンハーゲンなど)

支援物資

ユニセフ本部 (ニューヨーク)

開発途上国での活動計画をまとめ、集められた資金の使い方を決めます。

インテントリ研究所(フィレンツェ)

世界の子どもの状況や世帯の調査、分析、子どもの権利に関する研究を行っています。

ユニセフ現地事務所

各地で、子どもたちの命を守り、生活をよくするための活動を計画し、実施します。

世界の子どもたちへ



ウクライナの子どもたちにも..

〈ユニセフ熊本SDGs実行委員会〉 * 参加者：高校生

- 第1回：2022年9月10日(土)
「SDGsとユニセフについて」
- 第2回：10月1日(土) SDGsについて関心あることや学びたいことの話し合い。
- 第3回：10月22日(土)
熊大学生難民ボランティア体験を聞く。
・温暖化、リサイクル・住みやすいまちづくり
・ジェンダー・私たちの考える幸福度の4グループに分ける
- 第4回：11月2日(土)
各グループの進捗状況報告
訪問先:(株)永野商店、(株)熊本トヨタ自動車
Bridge KUMAMOTO、千原台高校、熊本YWCA
- 第5回：11月26日(土)
各グループの進捗状況、ブレイクアウト ルームでの話し合い
- 第6回：12月3日(土)
各グループの総括とシンポジスト・役割決定

熊本県ユニセフ協会は、子どもの権利条約の実現のために活動しています。

ボランティア募集!

世界に目を向けて、一緒に考えてみませんか?

事務局：月・水・木・金 10時~14時 在室

〈お問い合わせ先〉 熊本県ユニセフ協会
熊本市中央区国府1-11-2 サンアイ水前寺ビル
TEL：096-362-5757 FAX：096-362-5758